

西和賀の民話を手拭いに

日大芸術
学部生5人 あす販売、入浴会

学生演劇の冬合宿で西和賀町に滞在している日本大芸術学部の学生5人は23日、同町の湯本温泉の湯で展示入浴会を開き、同町に古くから伝わる民話をモチーフに制作した手拭いを販売する。

温泉を舞台に若者が芸術を表現するという「風呂美術大学」(風呂美)と名付けられた企画で、入浴会では手拭い販売のほか、湯田小児童が作った芸術作品の披露、大学生による「七ツ釜」の民話解説などをする。手拭いは、同町沢内の名勝「七ツ釜」にまつわる民話を題材に版画技法の一つシルクスクリーンで制作。雨乞いの様子や命が生まれる瞬間、自然との共生などを表現し、一枚一枚手作りした。

同日3年の染谷有紀さんは「演劇合宿の中でも『風呂美』は町の中に飛び出していく芸術。たくさんの方に見てもらえれば」と呼び



西和賀町に伝わる民話をモチーフに制作した手拭いを披露する学生たち

午前10時〜正午で、入浴料は500円(手拭い購入者は無料)。

手拭いは1枚500円、3枚1200円(税込)で、同町川尻の湯夢

初め吹き笛へ

水神 沢社 奥日高



高らかな笛の音を響かせる笛師たち

佐藤会長は「日本の祭りは浴衣やはんてんが多いが、日高火防祭は振り袖を着る。日本の一祭りとして未来永劫伝えたい」と声に力を込めた。

大石組合長は「組合設立60周年を記念して贈る。統合小の子どもたちに山から精いっぱいのエールを送りたい」とあいさつ。



寄付金の目録を読み上げる大石喜清組合長(左)

14年度統合小へ教育備品費贈る

奥州・生母森林組合

奥州市前沢区の生母生産森林組合(大石喜清組合長)は21日、来年度に同区7小学校を統合する際の教育備品整備費として、市に100万円を寄付した。

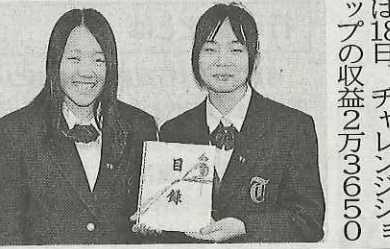
大石組合長ら7人が同市水沢区の市役所を訪問。小沢昌記市長と佐藤孝守教育長に目録

地域スポンサー

遠野緑峰高生が被災し、自ら仕入れた東北各地の特産品を販売。収益を寄付金にした。

菊池さんは「遠野の被災地支援のために高校生が何をできるのか考え、活動に取り組んだ」と意図を語り、千葉さんは「震災復興はまだ途中だ。今後も被災地の力になっていきたい」と思いを込めた。

一関、高松の2団体が学び基金に寄付。一関市の一関中央ライオンズクラブ(菅萱敬一会長)



大東町摺沢字折折沢69。火葬は22日午前11時から同市千厩町の千厩斎苑、葬儀は23日午後1時から同市大東町の高建寺で。喪主は長男(一)ゆんいち

高松市の高松中央ライオンズクラブ(中平博美会長)は17日、東日本大震災で被災した子どもを支援する県の「いわての学び希望基金」に50万円を寄付した。

花巻市

お悔やみ 阿部恒直(83)

北上市

お悔やみ 阿部淳也(77)

遠野市

お悔やみ 新田シモノ(20)

菅野セツ(103)綾織町下綾織